湖南市
Konan City

笑顔

交流 ふれあい 憩いの場

未来 時代の変化に対応 フレキシブル

＜新庁舎整備コンセプト＞

自然とひとだまりができ、交流が生まれる新庁舎

～ ひとり、ふたり...ひとが集まり、交流が生まれる ～

気軽にふらっと

やってみよう！使いたくなる

にぎわいワクワクするような

すべての市民に優しい

＜テーマ1＞
子どもの「やってみたい」と「おもいっきり」でまちを笑顔に

子どもがワクワクして思いっきり遊べるインタラクティブな場所

＜コンセプトイメージ＞

新庁舎から森北公園までの一帯エリアでは、子どもがワクワクして思いっきり遊べる環境を整備します。

例えば、夏は水遊び、冬は光とミストなどで幻想的な風景を演出することなど、季節ごとに違う表情を持つ空間により、「親子のひとだまり」を創出します。

【 若い世代の意見 】

- 水遊びエリア
- 室内で遊べる場所
- 子どもが遊んだり見学したりできる場所
- 子どもが入って遊べる噴水
- 子どもが過ごしやすいキッズスペース
- 子どもが声を出してもよいスペースをつくる
- いろんな形のベンチ
- 広場に噴水があってほしい

＜テーマ2＞

学生の探求がまちを育てる

学生がふらっと立ち寄って自習ができ、湖南市の魅力や課題に出会い探究できる居場所

＜コンセプトイメージ＞

市民交流スペースには誰もが使える机と椅子が配置され、学生がふらっと立ち寄れる「知のひとだまり」を創出します。学びの中で湖南市の魅力や課題に出会い、探究から主体的な行動が生まれていくような好循環を支えます。

【 若い世代の意見 】

・待ち時間を有意義に使えるスペースがある（勉強・スポーツ）
・学習スペース（小さい頃から親しみをもてる）
・学生が自習できる
・高校から徒歩圏内なので、たまり場になるようなスペース
・中高生が集まることができるスペースがあるとよい
・高校生が電車の待ち時間に立ち寄ろうと思える居場所づくり

＜テーマ3＞

市民の活動スペースが生みだす日常の余韻

忙しい日常にほっと一息つける大切な時間を新庁舎で過ごしたいと思える空間

＜コンセプトイメージ＞

市民と職員のまちづくりの対話空間を設置。掲示板で提示された市政のテーマに対して、市民が自由にアイデアを伝えることで、職員とのフラットなやりとりから生まれる多様なヒントは、まちづくりの財産になります。

乳幼児を持つ子育て世代のための調乳スペース、キッズブロックで子どもが遊べるコーナーを設置することで、気分転換に安心して子どもを連れて出かけられるママ・パパの居場所と、世代間の新たな出会いが生まれます。

飲食店や福祉作業所による日替わりのカフェ・物販、市内企業による自社商品の紹介や職場情報の発信など、多様な主体が入れ替わりながら参加することで、人材のマッチングや地域資源の発信が自然に生まれる場をつくります。市民がヒト・モノの魅力に触れ、応援し、関わることで、地域の価値を育み、共に創造する拠点となります。

【 若い世代の意見 】

・湖南市の企業と市民をつなぐ場所
・おしゃれなカフェみたいな場所があるとうれしい（おしゃべりしてもいい雰囲気）
・仕事やコミュニティが作れる場所になってほしい
・誰もが必要とし、実現できる場所　・若い世代と近い職員さんがいてくれる
・子どもや子育て世代の親が集まれる場所になってほしい
・子どもが安心して遊べるような広場があれば、ママ友も集まりやすいし、情報交換ができる　・ディスカッションができる庁舎　・交流スペース
・窓口相談以外で行く目的がある　・企業支援お試し出店
・やってみたいを応援エリア　・フリーで利用できるスペースがある

＜テーマ4＞

非日常のなかの市民活動の舞台

市民が誇る活動の舞台と文化ゾーンが一体となった大規模な空間

＜コンセプトイメージ＞

新庁舎の玄関まわりには大屋根と庇（ひさし）の設置や、開閉式シェードなど天候や季節に対応できる設備も検討します。天候を問わず快適に利用できるスペースとして、セレモニーや市民活動の発表、駐車スペースを利用したキッチンカーやイベントブースの設置をイメージします。また、新庁舎と森北公園等の一体利用によって、湖南市にしかできない市民が誇れる舞台を演出します。

【 若い世代の意見 】

・イベントの開催（週末マルシェ、祭り）
・市民が遊びに来れるようなスポットに
・イベント時の雨天対策として大屋根やテントの設置
・屋内イベントができる　・ランドマークを作る
・電源が引けるようにしてほしい　・キッチンカー
・だれでもイベントができるスペース
・庁舎と文化ゾーンのつながり
・駅から近いので、市外から遊びにきてくれると嬉しい
・イベントが開催できる庁舎がよい

KONAN CITY SDGs

＜テーマ5＞

自然と歩きたくなる周辺歩道

楽しみながら自然と歩きたくなる歩行者ファーストの空間設計

＜コンセプトイメージ＞

来庁者が自然と歩きたくなるような、庁舎周辺は歩行者ファーストの空間を創出します。市民が手入れする四季折々の花木は視覚や香りで楽しませてくれます。また、歩道にはカラー舗装や距離表示、駐車場には緑地を取り入れる工夫をすることで、庁舎周辺を健康的に歩くことができる景観をつくります。

庁舎敷地内の通り抜け車両と歩行者との接触リスクを軽減するための検討や、目的外駐車の防止のためカメラ式の駐車場を設置するなど、周辺歩道の安全を確保します。

【 若い世代の意見 】

- 庁舎周辺で安心して運動できる
- 子どもに優しい駐車場
- 寄りつきにくいとまず立ち寄ろうと思わないので、車での出入りのしやすさや見える景色、雰囲気も重要
- 駅から行きやすいわかりやすい動線
- 庁舎と公園の間の道路が危ないのでレンガ道などにして車のスピードを抑 えられるようにしてほしい
- アクセスしやすい　　・歩車分離
- 景観を乱さないナチュラルな外観

＜テーマ6＞
新しい時代に対応できる可変性のある環境

「つくりすぎない」「つくり込まない」を基本としたレイアウトで、いつの時代も快適で機能的な環境

＜コンセプトイメージ＞

① 市民が笑顔になれる環境づくり

中央まちづくりセンターが備えていた集会機能の空間を設け、市民活動や交流のハブとします。市民のニーズを踏まえ、大人数から少人数（10人以下）までシーンに合わせ可変性のある空間をつくります。また、市民が気兼ねなく傍聴できるようバリアフリー機能を施すことで、市民に開かれた議会を実現します。

② 庁舎で働くひとが笑顔になれる職場づくり

庁舎整備基本計画の基本方針より、可変性のあるオフィス環境と多様な働き方を可能にする設備を導入し、主体的な職員の成長を支え、若い世代に働く場所として選ばれる職場環境をつくります。

【 若い世代の意見 】

・フレキシブルな内装配置、使い方ができるようにしてほしい
・福祉の集まりが増える庁舎　・すべての人に利用しやすい場所
・誰もが必要とし、実現できる場所　・職員のモチベーション
・新しい時代に合った構造にできる　・時代の変化に対応可
・市民が訪れたいと思えるような明るく、これからの湖南市に希望がもてるような庁舎　・バリアフリー　・すべての市民に優しい庁舎